

令和7年度農作物病虫害発生予察技術資料第5号

令和7年(2025年)10月16日
山口県病虫害防除所

野菜・花き類のチョウ目害虫の防除の徹底について

ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ等の発生が多いため、防除対策の徹底をお願いします。

1 発生状況

- (1) 10月中旬の巡回調査(キャベツ)では、ハスモンヨトウは発生ほ場率100%(平年64.4%)、寄生株率21.0%(平年7.2%)、シロイチモジヨトウは発生ほ場率83.3%(平年18.6%)、寄生株率8.3%(平年1.6%)で、いずれも平年に比べ多かった(図1、2)。
- (2) ハスモンヨトウの県内5カ所のフェロモントラップによる誘殺数合計(9月11日~10月10日)は、10,107頭(平年9,208頭)で平年に比べやや多かった(図3)。
- (3) シロイチモジヨトウの防府市におけるフェロモントラップの誘殺数(9月11日~10月10日)は、1,506頭(前年159頭)であった(図4)。

2 防除対策

- (1) ほ場をよく観察し、発生及び被害が認められた場合には直ちに防除を行う。卵塊や若齢幼虫が集中した葉を見つけた場合は、すみやかに捕殺するとともに薬剤防除を実施する。
- (2) 本年は、チョウ目害虫の発生に好適な条件が続いているため、定期的な薬剤防除を継続する。
- (3) 防除薬剤は、農作物病虫害・雑草防除指導基準を参考に選定する。
<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/122/22316.html>

3 防除上注意すべき事項

- (1) ハスモンヨトウは葉の裏や鉄骨パイプ等の高い位置に黄褐色の毛で覆われた卵塊を産卵することが多いので注意する(写真2)。
- (2) 中齢から老齢幼虫は薬剤の効果が低下するため、若齢幼虫期の防除を徹底する。
- (3) 多くの薬剤に抵抗性が発達しているため、散布後には効果を確認するとともに、同一系統薬剤の連用は避ける。
- (4) 薬剤防除を行う場合は、周辺の作物に飛散させないように注意する。
- (5) 農薬を使用する際には使用基準を遵守し、適正な散布作業を実施する。

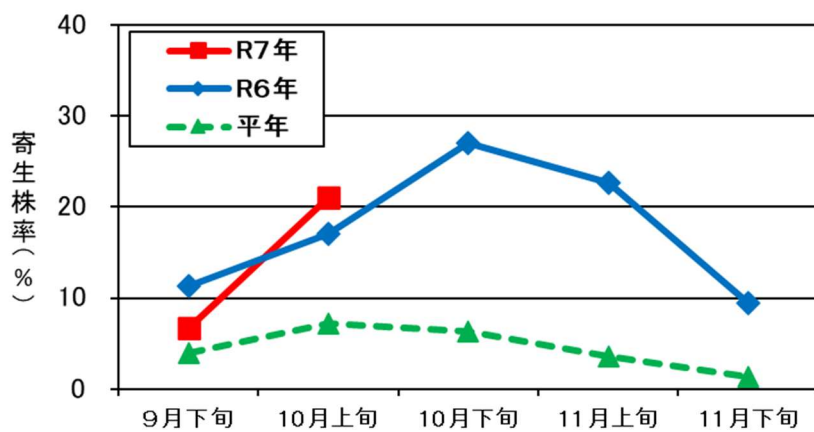


図1 キャベツのハスモンヨトウの発生状況(寄生株率)

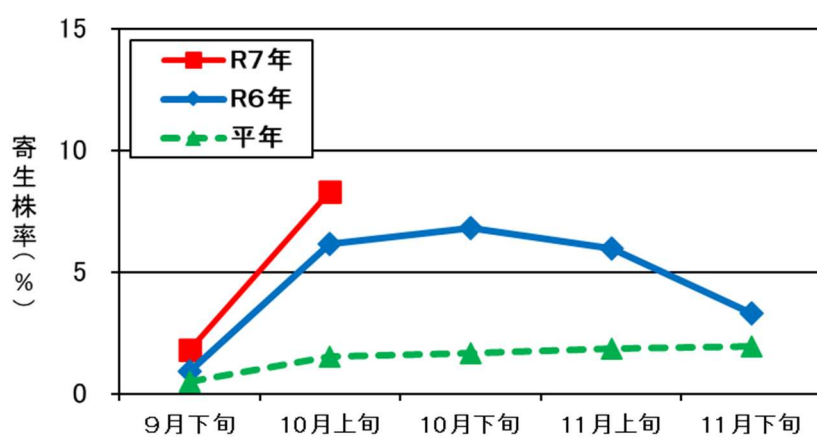


図2 キャベツのシロイチモジヨトウの発生状況(寄生株率)

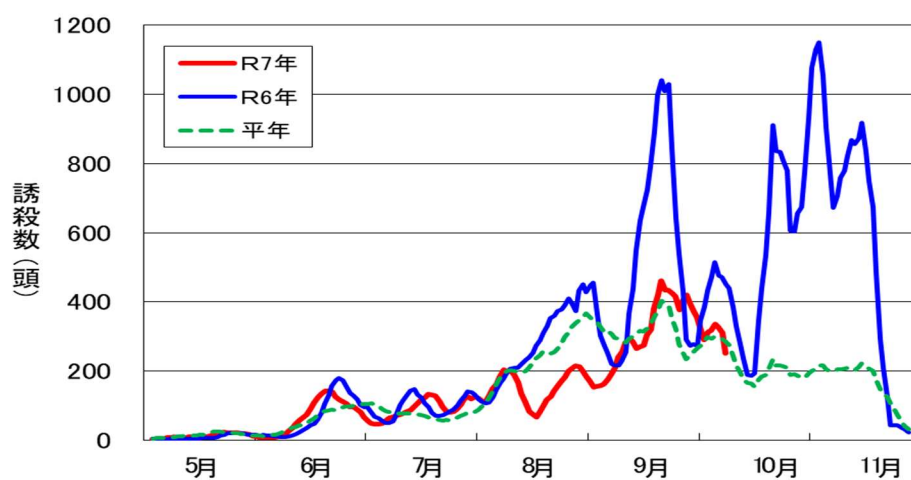


図3 フェロモントラップにおけるハスモンヨトウ誘殺数の推移(県内5か所)

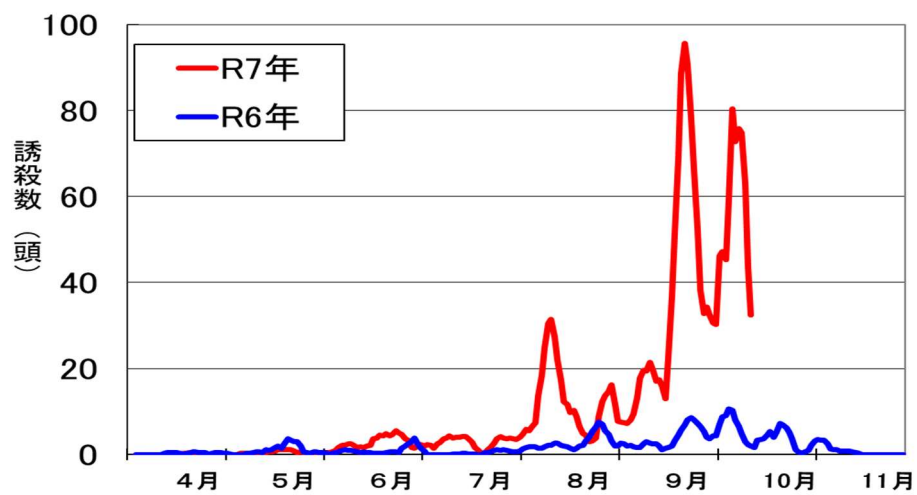


図4 フェロモントラップにおけるシロイチモジヨトウ誘殺数の推移（防府市）

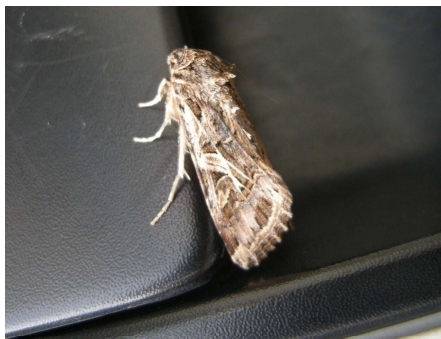


写真1 ハスモンヨトウ成虫

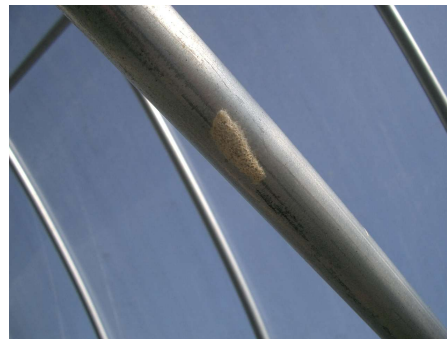


写真2 鉄骨パイプに産卵されたハスモンヨトウ卵塊



写真3 ハスモンヨトウ幼虫



写真4 シロイチモジヨトウ幼虫